

# なんぶ幸朋苑における予防リハビリの現状と今後

## 取り組み内容のポイント

高齢者の自立支援を目指し、地域との関わりの中で、介護予防通所リハビリテーション事業を中心に、いきいきとした生活を送っていただくよう、施設、事業所、地域包括支援センター一体で活動している。

鳥取県

社会福祉法人

こうほうえん

〒684-0021 鳥取県米子市石井1238 なんぶ幸朋苑  
TEL：0859-26-5566 FAX：0859-26-5570

## ❖法人設立年

昭和61年

## ❖法人実施事業

- ①経営施設数合計：16施設169事業  
②経営施設・事業【種別毎の数】：  
特別養護老人ホーム…7、軽費老人ホーム…5、  
短期入所…7、通所介護（老人デイサービス事業）…18、小規模多機能型居宅介護事業…5、  
生活支援ハウス…4、認知症対応型共同生活介護…8、老人居宅介護等事業（訪問介護）…4、  
介護老人保健施設…3、訪問看護事業…3、訪問入浴…1、福祉用具貸与…2、居宅介護支援…5、  
地域包括支援センター…3、高齢者向け優良賃貸住宅…1、高齢者専用賃貸住宅…2、  
特定施設入居者生活介護…5、通所リハビリテーション事業…5、短期入所療養介護事業…3、  
リハビリテーション病院…1、保育所…6、障害福祉サービス事業…5

## ❖法人の理念・経営方針

<理念>

「わたくしたちは 地域に開かれた 地域に愛される 地域に信頼される『こうほうえん』をめざします」

<基本方針>

「わたくしたちは サービス業のプロとして 正しい情報を伝達し 自分が受けたい 保健・医療・福祉サービスの 提供・改善に努めます」

## ❖取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

- ①定款記載の有無：記載している  
②事業報告・計画への記載：記載している

## ❖取り組みを実施している施設の概要

【施設名】

介護予防通所リハビリテーション なんぶ幸朋苑

【施設種別及び利用定員】

介護予防通所リハビリテーション 30名

## ❖活動内容

- ◇活動開始年：平成18年4月  
◇活動の対象者：地域住民 予防リハビリ利用者  
◇活動の頻度・時間：  
介護保険（予防）週4回  
介護保険外予防事業 週2回

## ◆活動実施の背景、実施にいたった理由

米子市の総人口約150,000人に対し介護予防事業所を管轄する地域包括支援センターは市内に7箇所、なんぶ幸朋苑はその内の一つ「尚徳地域包括支援センター」のエリアに属し、総人口は12,740人で、幾つかの住宅地を除き大半が農業を中心とする地域特性を持っている。65歳以上の高齢者は3,429人で高齢化率は26.9%と、市内でも高い数値であり、その中において高齢者の自立支援を促進する観点から平成18年に介護予防事業を立ち上げ、高齢者が健康で生き生きとした生活を送れるよう取り組んできた。高齢者の多くは住み慣れた地域で暮らす事を強く望んでおり、地域全体で支えるために、我々がその一翼を担うとともに、地域に開かれた事業所となるよう支援体制の確立に努めてきた。この地域の伝統的な特質である家庭や地域の互助、共助機能が弱まりつつあるなかで、高齢者の社会的繋がりを維持していくため、予防事業は今後の高齢者支援体制構築の貴重な礎としての役割を果たすものと確信している。

## ◆実施内容

平成18年4月に予防リハビリが独立スタートしたときの利用者は4名だった。予防リハビリには介護保険外の米子市の予防事業がある。現在では介護保険・2次予防事業・1次予防事業を含めると、ひと月の実利用者数96名、延利用者数531名まで増えてきた。主なサービス内容としては全身体操とマシントレーニングの併用で体力の維持向上を図ると共に、積極的に苑外へ出かけたり、80～90名になる苑内の通所事業所全体でのレクリエーションに参加するなど、社会的関わりを実感出来るように、また孤独感のない生活を送れるように工夫を凝らして取り組んでいる。要支援者は地元地域包括支援センターからの利用が75%、他地域からは25%であるのに対して市の2次、1次の予防事業は100%地元からの利用である。護送船団ともいえる送迎には上記事業の区別はない。区別がないからまとまって来やすいし、なじみが広がるのだと利用者が話される。ゆっくり会話の時間を費やしていただ

くように小サロンも設置し動き出している。トレーニング以外は時間刻みという事はしていない。

### ◆活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

地域との深い関わりのなかで「自らの健康管理と日常生活の充実を図る事ができ、以前の生活にはなかった楽しみができた」という声をよく聞くようになった。コミュニティーの中での存在感を実感できる場所になっているという事ではないだろうか。その裏にはリハビリ、介護、地域包括支援センタースタッフ等の連携と事業の計画性や個々に対する適切なプランと評価が存在していると感じている。一方で、介護はまだ不要だと考えている無関心期の高齢者には、「予防」という視点が大切であることを伝えてきた。それによって住民の健康意識も高くなった。予防利用者の中には長年ボランティアで、苑内にある特養の利用者に生き生きとして昔話の読み聞かせを行っている方もいる。そうした技を發揮していただくよう職員は目配りしているし、雰囲気の高揚が活性化のバロメーターとして跳ね返ってくるので仕事のやりがいを感じている。また今年度より、予防の観点から、認知症早期発見対策として、利用者全員を対象にタッチパネル式物忘れプログラム用いたチェックも行っている。今後は結果を追って認知症ケアに繋がる取り組みを考え実践していきたいと考えている。

### ◆今後の展開

今後、当地においても高齢化率は増加の一途を辿り、予防のニーズが急速に高まると予想される。事業所の定員をそう簡単に増やすことは難しく、また職員だけの総合的な支援にも限界がある。そのためには早い段階で関係機関や住民団体との連携を図り、地域支援体制の編成に寄与すべく取り組みたいと考えている。包括支援センターが管轄する中学校区というやや広い、しかし強い関係で結ばれている地域住民と、職員や利用者との交流のなかで信頼関係を構築し、地域の高齢者の活性化に向けて前進して行きたいと考えている。

### ◆主な経費や財源及び人員等

- ・取り組みに係わった職員数 30名  
（職種等：理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護福祉士、看護師、介護支援専門員）



リハビリスタッフによる指導風景



個々に合った作業等の活動風景

なんぶ幸苑介護デイケアにおける参加実人数（23年9月は見込み）

